

1 研究テーマ

児童も教師も楽しい道德の時間づくり
～道德教育推進教師のあり方を通して～

2 はじめに

学習指導要領が改訂され、平成23年度から全面的に実施することになるが、平成21年度から移行措置として一部が先行実施された。その中で、道德教育においても現代社会の様々な課題に対する緊急的な対応や重要性から先行実施の対象となった。所属校においても昨年度の道德教育研究発表を契機に道德教育に対する必要感、期待感が高まっている。そこで、私自身、道德教育推進教師の立場で楽しい道德の時間づくりを学校全体で取組むことに挑戦してみようと考えた。

3 研究目的

今までの道德の時間の課題解決のために「多様」と「実感」をキーワードとして、多様な創意工夫のある学習指導をすることで楽しい道德の時間を創り出したい。また、道德的実践につながる実感のある指導を学校全体で取組む体制づくりをするために道德教育推進教師のあり方を探っていきたいと考えた。

4 研究内容

(1) 楽しい道德の時間づくり

楽しさの捉え方を次のように考えた。

○楽しい道德学習とは

- ・「表現すること」・・・自分の思いを言葉で、書くことで、体を動かすことで表現し、自分の内なるものを表出する。その心地よさを感じる楽しさ。
- ・「認められること」・・・自分の思いが伝わっていると感じる楽しさ。肯定的評価。
- ・「関わること」・・・自分との関わりで共感できる。思いを伝え合うことによって存在感や集団や社会に貢献できる有用感を感じる喜び、楽しさ。
- ・「気づくこと」・・・今までの自分にはなかった感じ方や捉え方を発見した喜び、楽しさ。
- ・「わかること」・・・今まで知らなかった考え方や価値観が腑に落ちた楽しさ。

児童が楽しさを「実感」し、教師が手ごたえを「実感」できる道德学習をどう創るのか。



キーワードの「多様」が楽しさにつながると考え、「6つの拓く」を実践することにした。

- ①資料を拓く・・・読み物資料を中心に、映像など多様な資料を活用する。
- ②方法を拓く・・・人間関係プログラムを生かして、コミュニケーションを深める活動を取り入れたものを考える。
- ③関連を拓く・・・各教科、学級経営との関連を考えて取組む。
- ④人間を拓く・・・TTでの取組みやゲストティーチャーの活用を考える。
- ⑤時間を拓く・・・時間を柔軟に考えて取組む。
- ⑥空間を拓く・・・教室を出て、図書館で、また、野外でと、いつもの雰囲気とは異なったところで学習する。

永田繁雄氏（前文部科学省教科調査官）の提言より

①資料を拓く

- ・自作、自校資料
- ・資料提示の工夫

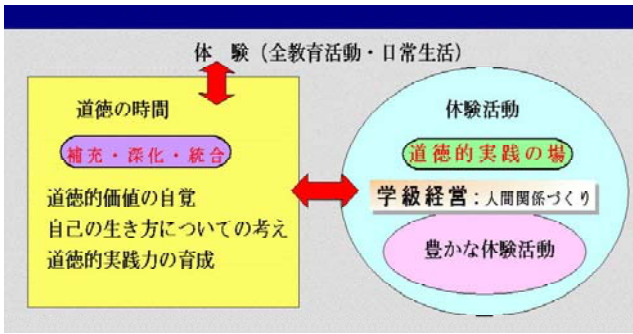


②方法を拓く

- ・エンカウンターを取り入れる



③関連を拓く



自己評価カード

家族に思いがけぬWeek

4月17日

行動目標

はくしりをする

毎日のふり取り

名前	内容	感想
山本	お母さんにまねがきき、楽しかったです。	
山本	お父さんと一緒に、楽しかったです。	
山本	お母さんにまねがきき、楽しかったです。	
山本	お父さんと一緒に、楽しかったです。	

取り組みのふり取り

★お母さんにまねがきき、楽しかったです。お父さんと一緒に、楽しかったです。お母さんにまねがきき、楽しかったです。お父さんと一緒に、楽しかったです。

- ・総合的な学習との関連
- ・日常生活との関連

車いすバスケット



④人間を拓く

- ・TTの取組
- ・GTの取組



⑤時間を拓く

⑥空間を拓く

- ・時間を柔軟に
- ・家庭、地域と広げる



(2) 道徳教育推進教師のあり方 (学校全体で取り組む体制づくり)

学校全体で道徳教育を推進していく体制をどうつくるのか。

- ① 道徳の全体計画
- ② 道徳の研究組織
- ③ 校内授業研究会
- ④ 同学年での取組 (道徳の時間づくり協働)

☆同学年での取組

時間割を組む際に、同学年で同じ曜日に道徳の時間を設定して、いっしょに教材研究をするなど、歩調をそろえて進めた。話し合う場を設定することで、道徳の時間はもちろん、学年経営、学級経営の充実につなげることもねらった。

5 研究のまとめ

多様な道徳学習

楽しい道徳

実感

◎多様な道徳学習から楽しい道徳学習を創り出し、それを実感できた児童や先生方が増えた。

計画

実践

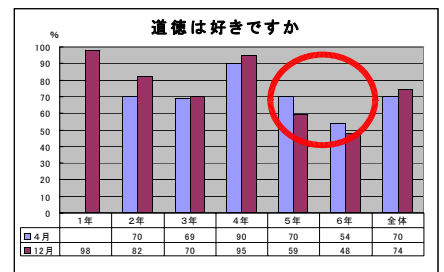
組織

時間確保

◎一個人の取組ではなく、学校全体として計画を立て、実践するための組織をつくり、また、話し合う時間を確保するには、道徳教育推進教師の役割は大きい。

6 今後の課題

高学年や特別支援学級での指導について、発達段階や児童の実態に合った指導のあり方を学級経営の充実と関連させながら探っていく必要がある。



7 おわりに

めざす子ども像に近づくためには、道徳教育と学級経営を両輪として進めること、そして、学級経営の充実には、楽しい道徳の時間づくりが有効である。

新学習指導要領で学校全体で取り組む道徳教育が強調され、道徳教育推進教師が位置づけられた意味をしっかりと考えて、楽しい道徳の時間づくりを学校組織として具現化していきたい。

